温泉も楽しめる登山口

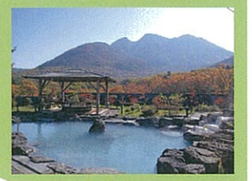
くじゅう連山は1700m級の山々が連なり、四季折々の景色を求め多くの方が訪れる魅力的な場所です。登山口も多いため、自分の体力や目的にあったコースを選べます。一方でくじゅう連山はいまだに噴煙を上げる硫黄山に代表される活火山であり、その恵みでもある温泉が周辺に多数湧出している場所でもあります。

くじゅう周辺の温泉の歴史は古く、筋湯温泉では千年以上前から利用されていたという記録があります。源泉の種類も豊富で単純温泉、硫黄泉、寒の地獄の冷泉から、七里田温泉のような炭酸泉まで多種多様な温泉があります。登山の後に気持ちの良い温泉に入りたい！と思う方も多いのではないでしょうか？

そこで、今回はくじゅうの山々を登山した後、「温泉も楽しめる登山口」にスポットを当てて紹介します。

①長者原（九重）登山口

九重登山口


九重星生ホテル

県道11号線（やまなみハイウェイ）沿いにあり、牧ノ戸峠登山口と並ぶ、くじゅうの玄関口。ここから雨ヶ池を通り坊ガツルや大船山、平治岳を目指すルートやスガモリ越えから三俣山を巡るルートなど様々な山にアプローチできます。

長者原温泉

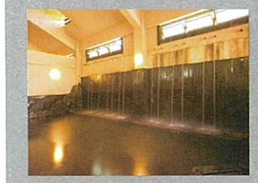
「長者原」の地名は大分観光の礎を築いた油屋熊八が朝日長者伝説にちなんで命名しました。江戸時代以降、硫黄山の硫黄採取を生業とする人々で賑わいましたが、時代の流れと共に閉山となり、現在では観光客や登山者に多く利用されています。周辺の「星生温泉」「牧ノ戸温泉」冷泉が湧く「寒の地獄温泉」と合わせて長者原温泉郷とも称されます。

②涌蓋山疥癬湯（わいたさん ひぜんゆ）登山口

筋湯温泉から下り、玖珠川の橋を渡った先に登山口があります。くじゅう連山の北西に位置し、「玖珠富士」とも呼ばれる涌蓋山への登山口です。

筋湯（すじゆ）温泉

共同浴場の約2mの高さから落ちる「打たせ湯」が迫力のある温泉。この打たせ湯と筋肉の痛みに良く効くことから「筋湯」と呼ばれるようになった言われています。その歴史は古く、開湯は958年と千年以上の歴史を誇り、涌蓋山の山麓に20件以上の宿が点在します。


筋湯温泉

涌蓋山登山口

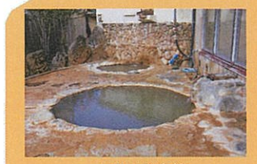
法華院温泉 番外編

坊ガツルの南西にある法華院温泉は鎌倉時代から天台宗の一大霊場・法華院白水寺として栄え、くじゅうの山岳信仰の象徴となる場所でした。1882年より山宿となり、九州で最も高い場所にある温泉としても知られ、硫酸温泉が登山者の疲れを癒してくれます。

③岳麓寺（がくろくじ）登山口

県道669号線から広域農道（奥豊後グリーンロード）に入り、集落の中の道を看板に従って進むと駐車場があります。（駐車場は令和2年7月豪雨の影響でやや荒れています。）その先が登山口となり、竹田市側から入山公廟（にゅうざんこうびょう）を通り大船山（たいせん）を目指すルートの入口となります。

七里田（しちりだ）温泉


七里田温泉館

岳麓寺登山口からは車で5分ほど、大船山の麓にある天然炭酸温泉。下ん湯は特に高濃度の炭酸が含まれています。岡藩3代当主であり、入山公廟に葬られた中川久清がお茶屋を建て、当時使用していた記録がある温泉です。

④一番水（いちばんみず）（レゾネイトクラブくじゅう）登山口

県道669号線沿い「レゾネイトクラブくじゅう」の第3駐車場が登山者用の駐車場。くたみ分れを通り坊ガツルや立中山を目指すルートになります。くたみ分れ周辺は春に山桜が綺麗に咲き誇ります。

久住温泉

レゾネイトクラブくじゅう

久住の自然を満喫出来るリゾートホテルとして「レゾネイトクラブくじゅう」がオープンした27年前より湧出しています。天然の保湿成分メタケイ素を含む炭酸水素温泉です。

⑤赤川登山口

国道442号線より赤川荘方面へ。登山口には駐車場とトイレが設置されています。急斜面に整備された階段を登る、久住山までの最短ルートになります。

赤川温泉

赤川荘

登山口からすぐの「赤川荘」にある温泉。文知2年（1185年）源頼朝時代に巻狩り演習中の兵士により発見されたと伝えられており、久住山赤川谷奥で自然湧出しています。硫化水素と炭酸ガスを同時に含んでいる珍しい硫黄冷鉱泉です。国道沿いには「久住高原ホテル」の温泉もあります。

くじゅうの温泉をもっと知りたい方のために

冊子「くじゅう山のルール＆マナー」に立ち寄り温泉MAPが記載されています。
※長者原ビジターセンターで配布しています。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、受入れを変更している施設がございます。詳しくは各施設にお問い合わせください。